化石研究会会誌
[報告・硬組織シンポジウム]
Journal of Fossil Research, Vol. 31(2), 58 (1999)

中国，雲南省昆明の巡検に参加して

二階堂　崇*

去る1998年10月5日より，北京の中国科学院古脊椎動物・古人類学研究所において“生体鉱物・硬組織に関するアジア地域国際研究集会”が開催された．この集会の直前の10月1日から4日まで，大森昌衛氏の提案で計画された雲南省昆明での巡検に小林巌雄（新潟大学教授），岡沢志樹，柿沼美保（以上同大理学部地質科学科学生）と共に参加することができた．

見学第1日目の10月2日は，上海国際空港から約2時間のフライトで昆明空港に到着し，以後は南京地質古生物研究所のFeng Weimen 氏と雲南省地質学会事務局長の Jiang Zhiwen 氏に案内していただいた．昆明からマイクロバスで約3時間，最初に見学したのはバージェス生物群と良く似た『澄江生物群』を産することで有名な，澄江帽天山のカンブリア系である（写真1）．保存露頭の付近には発掘記念碑があり，盗掘を防ぐ監視員もいた．保存露頭のすぐ近くに南京地質古生物研究所の分所が建設中で，展示館も設けられるらしい．この澄江は，東方にシニアン～下部カンブリア系が広く分布している丘陵地域であり，帽天山で標高2,023mである．また，『澄江生物群』は下部カンブリア系玉案山層の泥岩から産する，保存の良い後生動物群である．保存露頭からやや離れた場所で化石採集をさせてもらい，同行者が黄褐色の泥岩中より三葉虫等を発見した．

第2日目は昆明から西へ車で約3時間の禄豊である．ここはトリアス紀後期～ジュラ紀初期の古竜脚類を中心とした恐竜が多産する地域であり，中国で発見された初めての完全骨格標本ルーフェンゴサウルス（*Lufengosaurus*）等を禄豊恐竜博物館で見ることができた．その後，産状展示館を訪れ，まさに“ナマの”恐竜とご対面したのである（写真2）．この恐竜は体長10m前後，比較的長い首を持ち，4足又は2足歩行をした植物食のもので，*L. huenei* と *L.magnus* の2種類がいる．感動の対面を果たした後，産状博物館付近の露頭で化石（骨）を観察した．

第3日目は，その日オープンしたばかりの“雲南民族村”という，雲南省に住む8つの民族についての様々な展示や各種アトラクション（象の曲芸等）を行っているところを見学した．一通り駆け足で見て雲南に息づく人々の活気を感じつつ，午後は，一路研究集会の行われる北京へと向かった．

今回は私にとって初めての，非常に楽しい海外旅行だった．この旅で数々の貴重な出会いや経験をしたが，それらは日本においては成し得ないものばかりである．また，逆に考えれば，日本でしか成し得ないものもまだまだあると言える．次の旅が再び良いものになることを願いつつ，今回の素晴らしい旅を提供して下さった南京地質古生物研究所のFeng Weimen 氏及び雲南省地質学会事務局長の Jiang Zhiwen 氏，また各機関・関係者の方々に厚く御礼申し上げる．

写真1

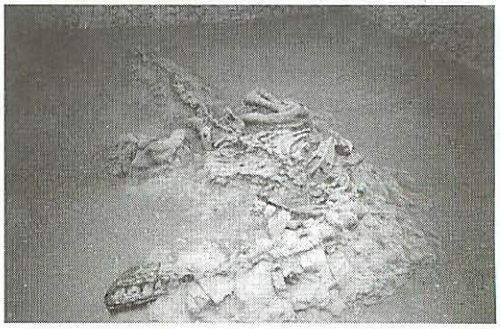

写真2

Takashi Nikaido

Field excursion to Kunming, Yunnan Province, South China

* 新潟大学理学部地質科学科